

もとより默啜の末年、即ち開元四年に配すべき事には非ず、たゞ(2)の記號を付せし拔曳固・同羅・霫・僕骨の唐に來歸せしことは、邊裔典突厥部彙考には見えざれど、前記舊唐書本紀の記事を茲に挿入したるものにして、正鵠を得たるものなりとす、されば兩史料對比の結果としては、正に余輩が見たるが如く、思結及びその他九姓に屬する數部、もしくは九姓中の回鶻・拔曳固・同羅・霫・僕骨等の部が *Oyuz* 中に數へらるべきものに外ならずとの結論を得べく、少くとも此の對照のみによりては、契苾・渾等が *Oyuz* 中に數へらるべき理由の存するなし。また *Marquart* 氏が阿跌 (*Ädiz*) を *Oyuz* 中に數へたる理由は明らかならざれど、思ふに之も邊裔典突厥部彙考開元三年の條に、唐書突厥傳を引きて阿跌(即ち)都督思太の來朝を記せるに據りたるものなるべし、然れども此の來降のことは、舊唐書本紀によれば同年二月のことにして、通鑑の註に引ける實録も、亦同一年月の事とせり、されば此の事件は直ちに默啜の末年、即ち默棘連の三十三歳の時に於る *Toquz Oyuz* の支那に投ずるに至りしことと相應せしめ得べきに非ず。

以上闕特勤・默棘連可汗の碑文に所謂 *Oyuz* と *Toquz Oyuz* 即ち九姓 *Oyuz* とは同一部の名稱にして、漢史に記せる鐵勒九姓に相當するものなることを論證せり、かゝれば碑文の *Toquz Oyuz* は回鶻を指せるにもあらず、又其の *Toquz* 即ち九なる數は、從來多くの學者が殆んど一樣に信じて疑はざりし藥羅葛以下兩唐書に列擧せる回鶻の九姓の數に相當する者にも非るを知るべし、たゞ上に述べたる所によれば、白霫なる部も九姓中に數へらるべきものと見ざる可らざるが如くなるに、此の名は唐會要所載の九姓の名目中には見えざるは頗ぶる疑はしき事なりとす、此の事は碑文の *Toquz Oyuz* と漢史の鐵勒九姓とを同一なりと認むる上に於て支障たるべき唯一の點なりと